

令和3年度 福島県立聴覚支援学校・平校 経営・運営ビジョン 年度末評価

学校教育目標

- 1 言語力を高め、伝え合うことができる人
- 2 自ら学び続ける人
- 3 できることに気付き、進んで取り組む人
- 4 心豊かで健やかな人

今年度の取り組み ●学習指導:主体的に思考する力の育成 ●生活指導:自ら考えて行動する力の育成

〔評価基準〕 A:良い B:やや良い C:やや不十分 D:不十分

〔評価者〕 保護者:10名 教職員等:11名 (回答率100%) ※評価:【(保護者の評価)・(教職員の評価)】

I-1 自立と社会参加に向けた指導の充実

- 1 人とかかわり合うためのコミュニケーション能力を育成するために、「ことばノート」「絵日記」などの教材を工夫し指導を充実させます。【A・B】
- 2 保護者及び関係機関との連携の際には、必ず「個別の教育支援計画」を活用し、指導支援の経過や合理的配慮を確認し、切れ目のない指導・支援をします。【A・A】
- 3 交流及び共同学習においては、交流校並びに交流保育園と「個別の教育支援計画」を用いて合理的配慮を確認し、共通理解のもと指導にあたります。【A・B】
- 4 多くの本とふれ合う機会を積極的に設け、読書に親しみ、書いて表現する力の育成に努めます。【B・B】

授業参観の際など、個別懇談時を実施し、保護者と個別の教育支援計画や指導計画について、具体的な話し合いを実施しています。保護者・教員とも高い評価を得ており、引き続き保護者との連携を図りながら進めていきたいと思ひます。

I-2 主体的に思考する力と豊かな心の育成

- 1 「漢字力テスト」「算数テスト」「読字力検定試験」などに挑戦する機会を設け、主体的に学習に取り組む力を育成します。【B・B】
- 2 積極的に移動図書館と連携し、読書活動を推進し、豊かな心を育てます。【B・B】
- 3 体験的活動を積極的に取り入れ、体験したことを「話す」「書く」「聞く」「読む」等のことばの学習をとおして、幼児児童が自ら考え、行動できるような主体性や意欲を育成します。【A・B】

今年度、いわき市総合図書館への校外学習を計画したり、引き続き移動図書館の活用を進めたりしています。今後も積極的に読書活動に取り組んでいきたいと思ひます。

教職員の評価の中で、「話す」「書く」「聞く」「読む」等のことばの学習の指導の難しさがあげられています。手話や身振り等を活用して指導していくことが必要ではないかとの意見も踏まえ、次年度の学習指導に生かしていきたいと思ひています。

I-3 一人一人の実態を踏まえた言語力の育成

- 1 教員は聴覚活用や多様なコミュニケーション能力の向上を図るため、専門研修や実技研修を行い、全職員が専門性の向上を図ります。【A・B】
- 2 聴覚補償、情報保障機器、手話や指文字の適切な活用ができるよう教員の研修を行います。【A・B】
- 3 外部の専門家を招聘し、教員自ら課題意識を持って、授業研究会を実施し、授業力の向上を目指します。【B・B】

コロナウイルス感染拡大防止のため、外部専門家による研修がリモート形式に変更になることがありましたが、おおむね、予定どおり実施することができました。また、教員から、研修部を中心に教員同士が学び合う研究会等を適時行うことができてよかったという意見があり、今後も続けていきたいと思ひています。

II 安全で安心な学校づくり

- 1 毎月安全点検を実施し、幼児児童の安全と安心の確保に努めるとともに、個人情報及び情報セキュリティの管理を徹底します。【B・A】
- 2 食育の推進と安全で楽しい学校給食の充実を図ります。【A・A】
- 3 特別活動や道徳教育において、いじめに対する指導を行い、また家庭と強く連携をとりながら、教職員が組織として予防的な対応を心がけます。【B・A】
- 4 防災・防犯教育や放射線教育の充実を図るとともに、新型コロナウイルス感染症などの感染症予防対策に努めます。【A・A】

学校生活の中で保護者が不安を抱えているとのコメントがありました。指導内容や方法について、日頃から、保護者と情報共有しながら進めていく必要があると考えます。また、新型コロナウイルス感染症予防については、保健部を中心に、スクール・サポート・スタッフの協力も得ながら、具体策を講じてきました。特にリスクの高い給食の場面では、気を緩めずに対応していきたいと思ひます。

III センターの機能の充実

- 1 地域の関係機関や保健師と連携し、0歳からの乳幼児教育相談を行います。【A・A】
- 2 教育事務所や市町村教育委員会、近隣の特別支援学校と連携し、幼稚園や保育所、学校等に在籍する聴覚障がいのある子どもへの支援を行います。【A・A】
- 3 地域における聴覚障がい教育の専門機関として学習会や研修会を開催し、地域に発信します。【A・B】

「センター的機能の充実」については、保護者、教職員とも全体的に評価が高くなっています。1月末現在、センター的機能を発揮した支援回数は延べ28件、来校相談件数は延べ113件実施できました。引き続き、地域の関係機関と連携を図りながら、地域における聴覚障がい教育の専門機関として、センター的機能を発揮していきたいと思ひています。